

## 1 概要

(1) 日時、場所 令和元年7月30日(火)、31日(水)、日本(東京)

(2) 参加者 日本、中国、韓国、ベトナム、カンボジア、モンゴル、台湾、ラオス、タイ、ミャンマー、フィリピン、香港の首席獣医官やアフリカ豚コレラ防疫担当者、OIE、FAO、ASF専門家(欧州、アジア)等合計約50名が参加  
(我が国からは、吉川農林水産大臣、熊谷動物衛生課長らが出席)



(3) 開催目的・背景

アジア地域におけるアフリカ豚コレラの拡大防止と清浄化に向けた地域の連携と情報共有を強化するため、OIEとFAOによるGF-TADs(越境性動物疾病対策の国際的枠組み)のもと、アジア地域アフリカ豚コレラ専門家会合が設立され、本年4月、中国(北京)で設立会合を開催。

(4) 概要

- 我が国が第2回会合を主催し、発生状況と対策を共有するとともに、水際検疫やバイオセキュリティなどの技術的課題について議論を実施。
- 吉川農林水産大臣から、地域の特性を考慮した対策が重要であるとして、
  - ① 各国政府と関係機関が連携し、リスクのある物品を持ち出さず、持ち込まない基本的な衛生管理の徹底、
  - ② 農場におけるバイオセキュリティの徹底、
  - ③ 水際検疫やバイオセキュリティの意義や重要性を理解するための効果的で継続的な教育や啓発活動、分かりやすいメッセージの発信の重要性を強調するとともに、会合を通じてアジア各国の連携を一層強化し、アフリカ豚コレラの拡大防止や封じ込めを目指すことが各国の国民の食を守り支えていくことにつながると発言。



吉川農林水産大臣の挨拶の様子

### (4) 概要(続き)

○ 水際検疫に関し、特に以下について認識を共有した。

- 水際検疫は、各国がそれぞれ責任を持って、出国前と入国地点の両方の段階で、旅行者が違法畜産物を通じた疾病の拡大の危険性について認識し、持ち出さない及び持ち込まないよう、航空会社や大使館、SNS等の様々な媒体を用いて注意喚起を行うこと。

- 国際郵便等を通じた拡大防止、国境地点での違法畜産物の摘発のため、関係機関が連携すること。

- 違法な持ち込みを防ぐための国境地点での対策を強化し、地域内での連携を強化するため、国境防疫に関する情報を各国で共有すること。

○ バイオセキュリティに関し、特に以下について認識を共有した。

- バイオセキュリティは、全ての豚農場にとって、アフリカ豚コレラの侵入を防止し、効果的にコントロールする上で不可欠であり、具体的な取組について啓発や教育が行われること。

- 効果的で安全に洗浄と消毒を行うため、適切な薬剤が適切な方法で使用されること。

- 管理されていない残飯養豚(swill feeding)は飼養豚におけるアフリカ豚コレラ発生の重大なリスクとなることを生産者等は認識し、適切な加熱処理がなされ、当局による規制がなされない限りは禁止されるべきであること。

- 野生イノシシと家畜豚の接触を防ぐ対策、例えば農場周囲への柵の設置等が講じられること。

## 2 今後の予定

○ 今年中に第3回会合が開催され、これまでのフォローアップが行われる予定。

○ 本年9月に仙台市で開催される第31回OIEアジア・極東・太平洋地域総会においてもアフリカ豚コレラを議題に取り上げ、アジア地域におけるアフリカ豚コレラへの対応状況について情報交換等を実施する予定。



第2回OIE/FAOアジア地域アフリカ豚コレラ専門家会合の様子